

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	通信会社（社員）	販売量の動き	・春商戦で携帯電話の販売量が増加している。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・3月から紳士服のブランドの入替えや新ブランドの投入を行ったため、ヤング、ヤングアダルトの需要開拓ができた。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来店客は店内の販売促進策に敏感に反応し始めており、来客数の増加、一品単価や客単価の上昇につながっている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・5か月前に店舗のリニューアルを行い、来客数は前年比110%を維持している。単価は同105%、売上は同115%の伸長となっている。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・県内の市場はそれほど良くないが、当社では新発売の車種を中心に受注が好調で、玉不足の状況である。加えて、整備台数も堅調に推移している。
		その他専門店 〔医薬品〕（営業担当）	来客数の動き	・3月の売上は既存店ベースで前年同月比106%と増加している。買上点数が同0.5点減少しているにもかかわらず、来客数が同109.6%と伸びていることが寄与している。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・2月からの展示会では来場者数も多く、客の顔つきも真剣である。ローンの金利が若干低下しているため、上昇前に申込を考えている人が多い。
	変わらない	一般小売店〔鮮魚〕（店長）	単価の動き	・以前に比べて買上点数が増加しているが、一品単価の下落がとまらず、客単価もダウンしている。来客数は変わらないものの、競合店等のチラシ攻勢で、周辺の一品単価も非常に下がっている。
		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	単価の動き	・販売量が低下しているなかで、価格競争が相変わらず激化している。利益がゼロに等しい商談も数多くある。
		スーパー（営業担当）	販売量の動き	・客は各店のチラシを見て買い回っているため、チラシを入れても販売量は増えない。しかし、これを中止すると売上が落ちるため、継続せざるを得ない。
		スーパー（副店長）	単価の動き	・来客数は前年並みであるが、依然として客単価が5%前後下回る傾向が続いている。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・3月は下旬に雪が降るなど不安定な天候が続いたため来客数が少なく、各種イベントに連動するインスタントカメラ、ジュース等の飲料、紙コップなどは例年どおり売れなかった。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・前月に続き、薄型テレビ、DVDレコーダーが好調で、花粉対策として空気清浄器、残寒のせいでファンヒーター等の暖房器具の売上が前年より伸びている。しかし、パソコン・同周辺機器、デジカメの売上は前年比で大きくダウンしている。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・今月も様々なイベントがあり、新製品が続々登場しているにもかかわらず、客の決断はなかなか進まない。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・年度末の3月の忙しさは例年並みであったが、新規顧客の発生状況や顧客の代替意欲は後退している。
		乗用車販売店（経理担当）	単価の動き	・季節的要因で全体の販売台数は増加しているが、当社の主力車種である高額車両の割合が下がり、低価格車やミドルクラスのRV車の割合が高まっているため業績としては芳しくない。
		乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・販売実績は前年に比較して多少上向いているが、来客数や販売単価などはそれほど良くない。
		自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・客は必要な時期に必要な商品だけを購入しており、目的買いの傾向が強い。
		その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	単価の動き	・原油の異常高の下でも、業界の過当競争は激しく、仕入高の販売価格への転嫁は非常に難しい。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・月の前半は悪く、後半からはやや良いという感じである。2人、3人連れの来客が目立っており、金額的に締めている感じがする。しかし、客の会話からは少しずつ良くなってきている様子が見える。

		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・3月中の間近の予約は前半は悪かったものの、中盤から後半にかけて持ち直し、例年並みの予約客数になった。	
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊人数が前年を下回っている。	
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・一般宴会の実施件数は減少しているが、客単価の上昇により増収となっている。一方、レストランの通常営業は来客数の減少により減収となり、全体では前年並みとなる見通しである。3か月前と比べるとレストランの通常営業の減収分を一般宴会の増収によりカバーし、ほぼ同額を見込んでいる。	
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・3月の来場者数は前年並みで推移している。	
		美容室（経営者）	来客数の動き	・依然として来店サイクルは延びたままで、結果として来客数が減っている。客単価は営業努力により現状を維持している。	
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・3月に入ってから客の動きも大分活発になり、見積の提出により受注が取れるような状況になってきた。	
やや悪くなっている		商店街（代表者）	お客様の様子	・悪天候の影響もあって、客に購買意欲があまり感じられない。	
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・今月の買上客数は前年同月比90%で推移している。子どもの入学式、卒業式用の母親の定番スーツの動きが例年に比べて悪く、客単価も上がっていない。また、気温が前年より低いため、春物衣料が不振である。	
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・3月は天候不順の影響が大きかった。客の消費行動をみると、月の前半では卒業、入学、進学、就職などのセレモニー需要、中盤では愛知万博の準備など行楽需要があったが、春のトレンドであるファッションを中心とした衣料品、雑貨が前年の8割程度にとどまった。また、必要な物は買うが、遊び心のある商品は後日に回すという客の動きが目立った。	
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・週末の来客数は前年とほぼ変わらないが、平日はかなりダウンしている。また、週末にしてもカジュアルの洋品の売上が悪く、入学式、卒業式の関連商品は直前になってようやく必要な物だけを買うという傾向がみられる。	
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・3月は気温が低かったため、衣料部門やホームセンターで来客数が特に減っている。春物商品の不振が目立つ。	
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・個人客の多い洋食店は例年に比べ約110%の来客数であるが、法人客の多い和食店は1組の人数や予算の減少が続いている。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・月の前半は良くなかったが、後半は駅前広場の完成で人出があった。また、送別会など夜の街もにぎわったが、タクシー台数が過剰なため、結果的には良くなかった。	
		競輪場（職員）	単価の動き	・3月は雪の降る日もあり、来場者数は前年比6%減、1人当たり売上高も同8%減となった。	
		悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・年配者は休日に家にいることが多く、買物の中身も食料品などにとどまっている。一方、若者は車でプラプラしながら時間を消費しているだけで、購買意欲がない。
	企業動向関連	良くなっている	-	-	-
やや良くなっている		食料品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・全体の販売量は増加傾向にある。特に新商品の影響が大きい。	
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・新規の受託製品の売上が順調に伸びている。	
		一般機械器具製造業（経営者）	それ以外	・昨年の12月から3月まで、月を追って成約面、受注面、取引先の動きがともに活発になっている。加えて、新製品が完成し、これが全体売上の40%以上を占めている。	
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・電子部品、鉄鋼、医薬品製造業などでは引き続き受注が上向いている。		

	変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・寒さが長引いたことから春物の動きが非常に悪く、婦人衣料が特に厳しい。取引先の発注態度も非常に慎重である。
		金属製品製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・需要と供給のバランスから、地元の設備投資は弱含みで推移している。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・受注量は増加しているものの、春の新商品展示会に向けての要因が大きく、長期的な上昇傾向にあるとは認識していない。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・例年3月は携帯電話の新規受注が増加する月であるが、今年は昨年並みかやや下回る程度の売行きとなっている。
		司法書士	取引先の様子	・事業に必要な土地を購入する企業がある一方で、後継者不在のための廃業も数多く見受けられる。
	やや悪くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・暖冬や天候不順もあって、婦人物を中心に衣料関係の動きが悪く、受注の動きも弱い。
		電気機械器具製造業（経理担当）	取引先の様子	・取引先では在庫を持つことを極端に嫌っており、発注を控えている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3月の現場は年度末工期の下請工事の完成に向けて多忙であった。しかし、手持工事量は昨年同月に比較して少なく、また新規工事もそれなりに受注できたものの、発注の少ない4～6月をまかなえるほどの工事量ではなかった。
	悪くなっている	建設業（総務担当）	競争相手の様子	・決算期末を控えて、各社とも受注量確保のため、見積、入札の激しい価格競争を続けており、適正な価格による落札が困難な状況にある。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・広告件数は3か月前と比べて約40%増加している。季節的要因ではあるが、飲食店などサービス系の業種では、卒業生に代わるアルバイト学生の募集が増えている。また、新規出店による求人も増加している。
		民間職業紹介機関（経営者）	求職者数の動き	・正社員としての採用者が増加した。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・人材不足状態は依然として続いている。個別企業に限られるが、正社員の求人要請が目につくようになってきた。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は増加基調で推移しているが、その背景としては派遣求人、請負求人が増加していることが挙げられる。非正規雇用求人が増加しても希望者が少なく、雇用のミスマッチが拡大するだけで、雇用環境の改善が厳しい状況にあることに変わりはない。
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・就職者数が前年比で1.0%減少している。また、最近6か月を前年と比較した場合、マイナス15%からプラス6%までアップダウンがあり、安定性に欠ける。
		学校〔大学〕（就職担当）	求職者数の動き	・企業からの求人が早期化しているが、一方では学生の就職活動が長期化している。
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・1月の求人広告は前年比3割増、2、3月は同1割減と一時の勢いはなく、減少傾向にある。
	悪くなっている	-	-	-